

新しいカタチへ・・・



第50回おりひめの会 開催 「安心して住める地域づくり 新おりひめの会」

記念すべき『はるかぜネットワーク200号』発行と同時に、12年前の七夕の日に発足した『おりひめの会』も今回の7月6日で50回目を迎えました。

『新おりひめの会』の名前にふさわしく、今回からは内容を一新。これまでの更年期・介護・老後に加え、住み慣れた地域で最期まで安心して暮らし続けられるように、さまざまな問題や悩みを参加者と一緒に語り合いました。

今回からテーマの幅が広がり、参加者も自宅で介護をされている主婦や女性企業家、民生委員、地域包括の職員の方など新しいメンバーも増え、大雨だった日にもかかわらず沢山の方にご参加頂きました。

会の前半は院長と理事長の講演、富永部長の看取りの症例報告を行いました。

後半は、参加者を4グループに分け、それぞれのグループごとにテーマに沿って討論を行いました。

Aグループ「介護する側の立場から」



「1年でも長生きしてほしいが、実際の介護はきれいごとばかりではない。お金の問題もある。」

「主人の介護でうつにもなったが、先生に相談したり、ケアマネや看護婦・ヘルパーに話して助けてもらいながら続けている。」

Bグループ「地域支援」



「自分の住んでいる地域にどんなサービスがあるのか、色んな情報を地域包括に尋ねてみる」

「問題を自分達だけで抱え込まず、病院や地域包括など相談できる箇所や人を一人でも増やすと気持ちも楽になる」

Cグループ「男も女も更年期世代から」



「家では母親・妻・親の介護、一人で役割が多い。自分は一人ではない。こういう場所で話をしていくことが大事。」

「親の介護をして許すことの大事さを知った。自分の経験がこれから人として成長していくと思っている。」

Dグループ「男の立場から」



「単身赴任で家のことは嫁に任せている。日頃考えることが少なかった夫婦のことや両親のことに気づきを与えられ、家族を見つめなおすいい機会になった」

「介護について家族で話し合うことがなかった。主に介護を行う女性を支えていきたい。」

グループ討議中、ご自身が介護をされている事を涙ながらにお話しされる場面もありました。皆さんにいろいろな想いをお話いただき、時間が足りない程でした。

アンケートの結果ですが、今一番悩んでいることが「介護のこと」。日頃は仕事や家事や介護に忙しい参加者の方々ですが、今日のグループ討議で気持ちを打ち明け、同じ経験をされている方や、知らなかった情報交換ができたとお話いただけました。

誰もが通る更年期、そしていつかは迎える人生の最期。様々な環境の中で過ごしている皆さんの「今の生き方」が老後を決めると言っても過言ではありません。

これからも地域と春日クリニックグループの情報をお伝えし、新おりひめの会でも様々なテーマを取り上げ進めていきます。



グループ発表をされる参加者の方

院長から一言

おりひめの会も、記念すべき50回を迎え、新しいスタートを切りました。根底にある「更年期」というキーワードは変わりませんが、更年期から始まるさまざまな問題を、「地域」も巻き込んで考えていこうという大きなテーマが新たに加わりました。

更年期世代は、家計を支え、家庭を支え、親の介護をするだけでなく、地域を支える大きなキーパーソンです。

おりひめの会実行委員も発足し、おりひめの会も今まで以上に熱が入っています。これからの活動にもどうぞご期待ください。



清田 真由美 院長